



看護部長便り～A letter from Ozawatti～

院外の研修会や学会に参加することは、最新の情報や動向を知る機会、自施設を客観的に考える機会、ネットワークを広げる機会、リフレッシュする機会等、たくさんの効果を得ることができます。でも、今年度はCOVID-19の影響で多くが制約され、参加を予定していた人のがっかりする様子が容易に想像できます。それでもオンライン開催に切り替わる学会も多く、私自身もオンライン開催になった看護管理学会へ申し込んでみました。臨場感やタイムリーな意見交換がどんな感じになるのかわかりませんが、この先もコロナとつきあっていくことを考えると、現状をつがえす新たなものの導入は必須だと思います。この機会に皆さんも、オンライン学会への参加を検討してみたいはいかがでしょうか？（夜はおうちで一人懇親会!?)



工夫しながら、集合研修を再開



新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、4月中旬から6月いっぱい集合研修はすべて中止となりました。しかし、その間も「できることは、やっという」をモットーに、メールでの配信や科長会議での発信を通じて、教育活動を続けました。7月に入り、集合研修を再開できることとなりましたが、考えたのが新しい生活様式ならぬ新しい研修様式です。①対象者を少人数にして同じ内容の研修を数日に分けて行う、②半日研修となるようにプログラムを組み直し、午前と午後で対象者を入れ替える、③午前の選択研修は分かれて行い、午後は合流する等、初めてのパターンに取り組みました。

変更のお知らせが直前となってバタバタしてしまったり、実際に行ってみてきた課題があったりと反省点はありますが、研修開催時期がズレたことが、かえって進捗に合致して良かった等の新たな発見ができた機会にもなりました。



新人看護師・新人介護福祉士の同期の輪をつなごう



4月6日に病棟配属となった30名のかわいい新人 看護師19名、介護福祉士11名です。今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で近隣散策だけではなく、研修自体が中止となり、とても残念でした(>_<)休日にも三密を避けた行動が必要となり、同期の仲間30名の顔と名前が一致しないままの病棟配属となってしまいました。そこで、新たな取り組みとして、新人同士の横の繋がりを強める目的で、顔写真入りの「新人 応援冊子」を作成し新人全員に配布しました。また、新たに仲間入りした30名に向けて「いつも愛情タプリー見守っています♥」「応援しています♥」「いつでも教育ルームに来てね♥」のメッセージを込めて「頑張ったで賞」のメッセージカードを毎月配布しています。かわいい30名の仲間たちのこれからの成長が楽しみです。



介護福祉士だけの「医療安全研修」



ラダーⅡ～Ⅳ対象の選択研修は10種類以上あり、対象者自身で参加を選択できる研修です。ほとんどの研修は看護師と介護福祉士と一緒に学べる研修になっていますが、今回の「医療安全」の研修への参加希望者は介護福祉士のみでした。病院で働く介護福祉士として「医療安全」に関心を持つことは素晴らしいことだと思います。



研修は医療安全管理者の畑中科长から講義を受けました。医療安全について振り返りながら改めて学ぶことも多く、「ImSAFER」はマッシュポテトの食物アレルギーの事例を用いて時間をかけて行いました。普段から食事に関わる人が多い介護福祉士ならではの視点で活発な意見交換ができていました。今後も現場での安全・安心なケアに活かしてくれることを期待しています。

ラジオ体操、第一～♪



デスクワークが多い毎日の中、教育専従では4月から続けていることが1つあります。それがラジオ体操です。子どもの頃にはよくやっていましたが、久しぶりだと振り付けを忘れていたんですね。ユーチューブで振り付けを練習したという真面目なメンバーもいました。ラジオ体操は昭和3年に作られて、なんと92年の歴史があるそうです。約3分の中に13種類ものエクササイズが入っている健康効果の高い体操とのことです。今のところ、体型などに何も変化の兆しはみられませんが、続けていこうと思います。